太平山山麓落葉広葉樹二次林における鳥類相

高橋 一郎*

Avifauna in a deciduous broad-leaved secondary forest at the foot of Mt.Taihei (Akita , Japan)

Ichiro TAKAHASHI*

はじめに

県内の鳥類相を明らかにしようとする試みの一端には、秋田県自然保護課の委託事業として昭和46年以降毎年実施している秋田県鳥類分布調査のほか、高橋(1988, 1989, 1990)、井上(2000)などがある。しかしながら、山林、草原、河川などの多くの環境要素を包含した市町村単位あるいは地理的区分の調査が多く、環境要素を絞った調査報告はまだ十分とはいえない。

本報告は、県内鳥類相把握の上で比較的未調査域とされる落葉広葉樹二次林(いわゆる雑木林)に範囲を絞り、林内を生息の場とする鳥類相の把握を試みたものである。また、調査地内においても新たな伐採があるなど、県内の二次林は後退し

ており、このような環境下における鳥類を把握する意味は大きいと考える.

本報告をまとめるにあたり、調査地内の植生を図1に示すように図化してくれたほか、夜間の昆虫調査中にフクロウの生息を確認し、情報提供してくれた当博物館 梅津一史 学芸主事の御協力に深甚なる謝意を表する.

なお、平成12年11月26日、秋田生物学会において本報告の中間発表をしており、その質疑において会員から貴重な助言をいただいた。

1 調査地の概要

秋田県中央部の南北に出羽山地が、その西側に太平山地がある。秋田市の東方には、太平山地の

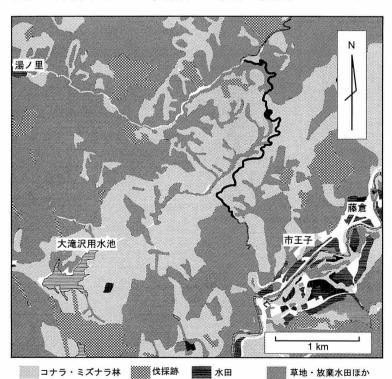




図1 調査地の位置および調査地周辺の植生

開水面

スギ植林

畑・牧草地 ~調査ルート

主峰となる標高1170mの太平山が位置している.

調査地は、図1に示すように、太平山の南西山麓、秋田市山内市王子・藤倉と秋田市上新城湯の里に挟まれた民有地であり、コナラ・ミズナラ・カスミザクラ・クリなどの落葉広葉樹二次林が比較的広く残存する。針葉樹としては、スギが緩斜面および沢筋、集落周辺にかなり濃く植林されているほか、アカマツが尾根部分に点在している。また、地内の地形は、標高約150~500mの低山と沢とが深く入り組んで複雑である。

秋田市近郊には広範な落葉広葉樹林は少なく, 針葉樹とモザイク状に分断しているのがほとんど である.調査地は,近年まで商業用の薪炭材採集 用地として確保されていたものと推察される.

2 調査方法

調査は、調査地内を秋田市山内と同市上新城とを結ぶ通称「湯の里林道」に沿った約4km間で 実施した.調査方法は、二次林が濃く残存する地域、広い範囲を見渡せる地域に5カ所のステーションを設けてポイントセンサスしたほか、調査ルートを移動中に確認した鳥類を調査結果に付加し補完した.

調査期間は、平成12年4月から12月までであり、各月の調査回数は、上・中・下旬各1回計月3回(7月のみ出現頻度の低さを懸念して4回)、合計28回である。また、調査時間は、1回の調査につき約120分を設定した。

表1に示す鳥類目録は、日本鳥学会目録編集委員会(1997)が表した「日本産鳥類リスト」により作成した。

3 結果と考察

(1) 月別調査結果

表1の鳥類目録に示すように期間中に出現した 鳥類は22科55種である.調査結果は、月毎にまと め、表2に示した.なお表中のNは出現個体数、 N/hは単位時間あたりの出現個体数(相対密度) である.

出現種の状況を概観すれば、樹林内ではヒヨドリ, キジバト, オオルリ, キビタキ, カケス, ハシボソガラスのほか, アオゲラ, アカゲラ, コゲ

表1 落葉広葉樹二次林の鳥類目録

Family Accipitridae タカ科 1 Milvus migranns lineatus 2 Accipiter gentilis fujiyamae オオタカ 3 Buteo buteo japonicus ノスリ 4 Falco columbarius insignis コチョウゲンボウ Family Phasianidae キジ科 5 Phasianus soemmerringii scintillans 6 Phasianus colchicus robustipes キジ Family Columbidae ハト科 7 Streptopelia orientalis orientalis キジバト 8 Sphenurus sieboldii sieboldii アオバト Family Cuculidae カッコウ科 9 Cuculus saturatus horsfieldi ツッドリ 10 Cuculus poliocephalus poliocephalus ホトトギス Family Strigidae フクロウ科 11 Strix uralensis hondoensis Family Caprimulgidae ヨタカ科 12 Caprimulgus indicus jotaka ヨタカ Family Picidae キッツキ科 13 Picus awokera awokera 14 Dendrocopos major hondoensis アカゲラ 15 Dendrocopos kizuki seebohmi コゲラ Family Hirundinidae ツバメ科 16 Hirundo rustica gutturalis Family Motacillidae セキレイ科 17 Motacilla cinerea robusta キセキレイ Family Campephagidae サンショウクイ科 18 Pericrocotus divaricatus サンショウクイ Family Pycnonotidae ヒヨドリ科 19 Hypsipetes amaurotis amaurotis ヒョドリ Family Laniidae モズ科 20 Lanius bucephalus bucephalus モズ Family Troglodytidae ミソサザイ科 21 Troglodytes troglodytes fumigatus ミソサザイ Family Turdidae ツグミ科 22 Tarsiger cyanurus cyanurus ルリビタキ 23 Zoothera dauma aurea トラッグミ 24 Turdus cardis クロツグミ 25 Turdus chrysolaus chrysolaus アカハラ 26 Turdus pallidus シロハラ 27 Turdus obscurus マミチャジナイ 28 Turdus naumanni eunomus ッグミ Family Sylviidae ウグイス科 29 Urosphena squameiceps 30 Cettia diphone cantans ウグイス 31 Phylloscopus borealis xanthodryas メボソムシクイ Family Muscicapidae ヒタキ科 32 Ficedula narcissina narcissina キビタキ 33 Cyanoptila cyanomelana マタanomelana オオルリ 34 Muscicapa dauurica dauurica コサメビタキ Family Aegithalidae エナガ科 35 Aegithalos caudatus trivirgatus エナガ Family Paridae シジュウカラ科 36 Parus montanus restrictus コガラ 37 Parus ater insularis ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ 38 Parus varius varius 39 Parus major minor シジ Family Zosteropidae メジロ科 40 Zosterops japonica japonica メジロ Family Emberizidae ホオジロ科 41 Emberiza cioides ciopsis ホオジロ 42 Emberiza rustica latifascia カシラダカ 43 Emberiza elegans elegans ミヤマホオジロ 44 Emberiza spodocephala personata アオジ 45 Emberiza variabilis クロジ Family Fringillidae アトリ科 46 Fringilla montifringilla アトリ 47 Carduelis sinica minor カワラヒワ 48 Carduelis spinus マヒワ 49 Carpodacus roseus オオマシコ 50 Uragus sibiricus sanguinolentus ベニマシコ 51 Pyrrhula pyrrhula griseiventris ウソ 52 Eophona personata personata イカル Family Corvidae カラス科 53 Garrulus glandarius japonicus カケス 54 Corvus corone orientalis ハシボソガラス

55 Corvus macrorhynchos japonensis ハシブトガラス

表 2 月別調査結果

	調査月	4	月	5	月	6	月	7	月	8	月	9	月	10	月	11	月	12	月	莆	t
	調査回数		3回		3回		3回		4回		3回		3回		3 回		3回		3 回		28回
	調査時間(分、時)	320	5.3	330	5.5	340	5.7	440	7.3	320	5.3	350	5.8	360	6.0	360	6.0	360	6.0	3180	53.0
		N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h	N	N/h
1	トビ	2	0.4	4	0.7	1	0.2					3	0.5	1	0.2					11	0.2
2	オオタカ			4	0.7	2	0.4					1	0.2							7	0.1
3	ノスリ															1	0.2			1	0.0
4	コチョウゲンボウ																	1	0.2	1	0.0
5	ヤマドリ									Ĩ	0.2							1	0.2	2	0.0
6	キジ													1	0.2					1	0.0
7	キジバト	4	0.8	6	1.1	5	0.9	16	2.2	19	3.6	6	1.0	10	1.7	3	0.5			69	1.3
8	アオバト					1	0.2	1	0.1											2	0.0
9	ツツドリ			2	0.4	2	0.4													4	0.1
10	ホトトギス					4	0.7	2	0.3											6	0.1
11	フクロウ					0														0	0.0
12	ヨタカ							2	0.3	2	0.4									4	0.1
13	アオゲラ	2	0.4	4	0.7	2	0.4	1	0.1	1	0.2	2	0.3			3	0.5	1	0.2	16	0.3
14	アカゲラ	2	0.4					4	0.5	1	0.2			3	0.5	8	1.3	4	0.7	22	0.4
15	コゲラ	7	1.3	8	1.5	2	0.4	4	0.5	3	0.6	10	1.7	10	1.7	10	1.7	7	1.2	61	1.2
16	ツバメ					7	1.2			17	3.2									24	0.5
17	キセキレイ	4	0.8	2	0.4	3	0.5	9	1.2	7	1.3	3	0.5	2	0.3					30	0.6
18	サンショウクイ									32	6.0									32	0.6
19	ヒヨドリ	10	1.9	23	4.2	. 48	8.5	55	7.5	35	6.6	73	12.5	25	4.2	24	4.0	10	1.7	303	5.7
20	モズ	2	0.4	1	0.2															3	0.1
21	ミソサザイ															1	0.2	2	0.3	3	0.1
22	ルリビタキ															14	2.3			14	0.3
23	トラツグミ							2	0.3											2	0.0
24	クロツグミ					5	0.9	15	2.0	4	0.8									24	0.5
25	アカハラ							1	0.1							2	0.3			3	0.1
26	シロハラ													5	0.8					5	0.1
27	マミチャジナイ													4	0.7	7	1.2			11	. 0.2
28	ツグミ															2	0.3	28	4.7	30	0.6
29	ヤブサメ	1	0.2	3	0.5	6	1.1	6	0.8											16	0.3
30	ウグイス	3	0.6	18	3.3	17	3.0	31	4.2	15	2.8	2	0.3	12	2.0	8	1.3	2	0.3	108	2.0
31	メボソムシクイ	2	0.4							5	0.9	3	0.5							10	0.2
32	キビタキ			6	1.1	8	1.4	4	0.5	1	0.2									19	0.4
33	オオルリ	2	0.4	8	1.5	- 11	1.9	13	1.8	6	1.1	3	0.5							43	0.8
34	コサメビタキ			2	0.4					2	0.4	2	0.3	1	0.2					7	0.1
35	エナガ	11	2.1	8	1.5					11	2.1	61	10.5	73	12.2	24	4.0	19	3.2	207	3.9
36	コガラ	5	0.9	9	1.6	2	0.4			5	0.9			2	0.3	2	0.3	12	2.0	37	0.7
37	ヒガラ	14	2.6	32	5.8	9	1.6	5	0.7	9	1.7	17	2.9	17	2.8	23	3.8	14	2.3	140	2.6
38	ヤマガラ	4	0.8	6	1.1			1	0.1	3	0.6	17	2.9	16	2.7	17	2.8	8	1.3	72	1.4
39	シジュウカラ	13	2.4					1	0.1	5	0.9			14	2.3	19	3.2	16	2.7	68	1.3
40	メジロ	10	1.9	3	0.5					22	4.1	11	1.9	115	19.2	2	0.3	3	0.5	166	3.1
41	ホオジロ	12	2.3	6	1.1	18	3.2	9	1.2	23	4.3	18	3.1	17	2.8	8	1.3	7	1.2	118	2.2
42	カシラダカ	50	9.4											12	2.0					62	1.2
43	ミヤマホオジロ															2	0.3			2	0.0
44	アオジ	12	2.3											28	4.7			2	0.3	42	0.8
45	クロジ	2	0.4																	2	0.0
46	アトリ	10	1.9																	10	0.2
47	カワラヒワ			1	0.2			3	0.4							1	0.2	2	0.3	7	0.1
48	マヒワ	1	0.2							(4						2	0.3	13	2.2	16	0.3
49	オオマシコ																	3	0.5	3	0.1
50	ベニマシコ	24	4.5											12	2.0	3	0.5	4	0.7	43	0.8
51	ウソ															2	0.3	22	3.7	24	0.5
52	イカル					2	0.4									1	0.2	48	8.0	51	1.0
53	カケス	8	1.5	7	1.3	12	2.1	4	0.5	1	0.2	6	1.0	11	1.8	5	0.8	1	0.2	55	1.0
2007	ハシボソガラス	1	0.2	2	0.4	6	1.1	7	1.0			1	0.2	2	0.3	5	0.8	2	0.3	26	0.5
	ハシブトガラス	22.702								1	0.2	8	1.4	4	0.7	6	1.0	2	0.3	21	0.4
出玛	1種数	27種		23種		22種		23種		25種		19種		24種		28種		26種		55種	
second or	見個体数・相対密度	218	41.4	165	30.2	173	30.9	196	26.4	231	43.5	247	42.2	397	66.3	205	33.9	234	39.2	2066	39.1

表3 繁殖種の月別調査結果

	調査月	4	月	5	月	6	月	7	月	8	月	9	月	10	月	11	月	12	月	Ē	计
	調査時間(分、時)	320	5.3	330	5.5	340	5.7	440	7.3	320	5.3	350	5.8	360	6.0	360	6.0	360	6.0	3180	53.0
		N	N/h																		
1	トビ	2	0.4	4	0.7	1	0.2					3	0.5	1	0.2					11	0.2
2	オオタカ			4	0.7	2	0.4					1	0.2							7	0.1
4	ヤマドリ									1	0.2							1	0.2	2	0.0
5	キジ													1	0.2					1	0.0
6	キジバト	4	0.8	6	1.1	5	0.9	16	2.2	19	3.6	6	1.0	10	1.7	3	0.5			69	1.3
8	ツツドリ			2	0.4	2	0.4													4	0.1
9	ホトトギス					4	0.7	2	0.3											6	0.1
12	アオゲラ	2	0.4	4	0.7	2	0.4	1	0.1	ī	0.2	2	0.3		2	3	0.5	1	0.2	16	0.3
13	アカゲラ	2	0.4					4	0.5	1	0.2			3	0.5	8	1.3	4	0.7	22	0.4
14	コゲラ	7	1.3	8	1.5	2	0.4	4	0.5	3	0.6	10	1.7	10	1.7	10	1.7	7	1.2	61	1.2
16	キセキレイ	4	0.8	2	0.4	3	0.5	9	1.2	7	1.3	3	0.5	2	0.3					30	0.6
18	ヒヨドリ	10	1.9	23	4.2	48	8.5	55	7.5	35	6.6	73	12.5	25	4.2	24	4.0	10	1.7	303	5.7
23	クロツグミ					5	0.9	15	2.0	4	0.8									24	0.5
28	ヤブサメ	1	0.2	3	0.5	6	1.1	6	0.8											16	0.3
29	ウグイス	3	0.6	18	3.3	17	3.0	31	4.2	15	2.8	2	0.3	12	2.0	8	1.3	2	0.3	108	2.0
31	キビタキ			6	1.1	8	1.4	4	0.5	1	0.2									19	0.4
32	オオルリ	2	0.4	8	1.5	11	1.9	13	1.8	6	1.1	3	0.5							43	0.8
34	エナガ	11	2.1	8	1.5					11	2.1	61	10.5	73	12.2	24	4.0	19	3.2	207	3.9
35	コガラ	5	0.9	9	1.6	2	0.4			5	0.9			2	0.3	2	0.3	12	2.0	37	0.7
36	ヒガラ	14	2.6	32	5.8	9	1.6	5	0.7	9	1.7	17	2.9	17	2.8	23	3.8	14	2.3	140	2.6
37	ヤマガラ	4	0.8	6	1.1			1	0.1	3	0.6	17	2.9	16	2.7	17	2.8	8	1.3	72	1.4
38	シジュウカラ	13	2.4					1	0.1	5	0.9			14	2.3	19	3.2	16	2.7	68	1.3
39	メジロ	10	1.9	3	0.5					22	4.1	11	1.9	115	19.2	2	0.3	3	0.5	166	3.1
40	ホオジロ	12	2.3	6	1.1	18	3.2	9	1.2	23	4.3	18	3.1	17	2.8	8	1.3	7	1.2	118	2.2
52	カケス	8	1.5	7	1.3	12	2.1	4	0.5	1	0.2	6	1.0	11	1.8	5	0.8	1	0.2	55	1.0
53	ハシボソガラス	1	0.2	2	0.4	6	1.1	7	1.0			1	0.2	2	0.3	5	0.8	2	0.3	26	0.5
出现	見種数	27種		23種		22種		23種		25種		19種		24種		28種		26種		55種	
繁列	直種数	19種		20種		19種		18種		19種		16種		17種		15種		15種		26種	i.
繁殖	直種の割合(%)	70.0		87.0		86.4		78.3		76.0		84.2		70.8		53.6		57.7		47.3	
出现	見個体数·相対密度	218	41.4	165	30.2	173	30.9	196	26.4	231	43.5	247	42.2	397	66.3	205	33.9	234	39.2	2066	39.1
繁殖	直種個体数·相対密度	115	21.9	161	29.4	163	29.1	187	25.2	172	32.4	234	40.0	331	55.2	161	26.6	107	18.0	1631	30.7
繁殖	直種個体数の割合(%)	52.8		97.6		94.2		95.4		74.5		94.7		83.4		78.5		45.7		78.9	

ラのキツツキ類、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラのカラ類、エナガ、メジロが、林道脇および荒廃地の草地ではウグイス、ホオジロが、沢筋に近い地内ではキセキレイ、ヤブサメが高い出現頻度を示す。これらは、当地において繁殖もしくはその可能性の高い種類である。

出現頻度は低いが、樹林内では、前述の種類の ほか、トビ、オオタカ、アオバト、ツツドリ、ホ トトギス, ヨタカ, サンショウクイ, トラツグミ, メボソムシクイ, コサメビタキ, カワラヒワ, フクロウ (梅津氏からの情報) が繁殖期に認められるし, 繁殖の可能性もある. 春, 秋の渡りの時期および冬期には, ノスリ, コチョウゲンボウ, ルリビタキ, シロハラ, マミチャジナイ, ツグミ, ミヤマホオジロ, マヒワ, ウソ, イカルが林内において確認された.

表 4 月別優占種

調査月	4	,	月	5		月	6		月	7		月	8		月
		N	%		N	%		N	%		N	%		N	%
1	カシラダカ	50	22.9	ヒガラ	32	19.4	ヒヨドリ	48	27.7	ヒヨドリ	55	28.1	ヒヨドリ	35	15.2
2	ベニマシコ	24	11.0	ヒヨドリ	23	13.9	ホオジロ	18	10.4	ウグイス	31	15.8	サンショウクイ	32	13.9
3	ヒガラ	14	6.4	ウグイス	18	10.9	ウグイス	17	9.8	キジバト	16	8.2	ホオジロ	23	10.0
4	シジュウカラ	13	6.0	コガラ	9	5.5	カケス	12	6.9	クロツグミ	15	7.7	メジロ	22	9.5
5	ホオジロ	12	5.5	コゲラ	8	4.8	オオルリ	11	6.4	オオルリ	13	6.6	キジバト	19	8.2
6	アオジ	12	5.5	オオルリ	8	4.8	ヒガラ	9	5.2	キセキレイ	9	4.6	ツバメ	17	7.4
7	エナガ	11	5.0	エナガ	8	4.8	キビタキ	8	4.6	ホオジロ	9	4.6	ウグイス	15	6.5
8	ヒヨドリ	10	4.6	カケス	7	4.2	ツバメ	7	4.0	ハシボソガラス	7	3.6	エナガ	11	4.8
9	メジロ	10	4.6	キジバト	6	3.6	ヤブサメ	6	3.5	ヤブサメ	6	3.1	ヒガラ	9	3.9
10	アトリ	10	4.6	キビタキ	6	3.6	ハシボソガラス	6	3.5	ヒガラ	5	2.6	キセキレイ	7	3.0
11	カケス	8	3.7	ヤマガラ	6	3.6	キジバト	5	2.9	アカゲラ	4	2.0	オオルリ	6	2.6
12	コゲラ	7	3.2	ホオジロ	6	3.6	クロツグミ	5	2.9	コゲラ	4	2.0	メボソムシクイ	5	2.2
13	コガラ	5	2.3	トビ	4	2.4	ホトトギス	4	2.3	キビタキ	4	2.0	コガラ	5	2.2
14	キジバト	4	1.8	オオタカ	4	2.4	キセキレイ	3	1.7	カケス	4	2.0	シジュウカラ	5	2.2
15	キセキレイ	4	1.8	アオゲラ	4	2.4	オオタカ	2	1.2	カワラヒワ	3	1.5	クロツグミ	4	1.7
16	ヤマガラ	4	1.8	ヤブサメ	3	1.8	ツツドリ	2	1.2	ホトトギス	2	1.0	コゲラ	3	1.3
17	ウグイス	3	1.4	メジロ	3	1.8	アオゲラ	2	1.2	ヨタカ	2	1.0	ヤマガラ	3	1.3
18	トビ	2	0.9	ツツドリ	2	1.2	コゲラ	2	1.2	トラツグミ	2	1.0	ヨタカ	2	0.9
19	アオゲラ	2	0.9	キセキレイ	2	1.2	コガラ	2	1.2	アオバト	1	0.5	コサメビタキ	2	0.9
20	アカゲラ	2	0.9	コサメビタキ	2	1.2	イカル	2	1.2	アオゲラ	1	0.5	ヤマドリ	1	0.4
21	モズ	2	0.9	ハシボソガラス	2	1.2	トビ	1	0.6	アカハラ	1	0.5	アオゲラ	1	0.4
22	メボソムシクイ	2	0.9	モズ	1	0.6	アオバト	1	0.6	ヤマガラ	1	0.5	アカゲラ	1	0.4
23	オオルリ	2	0.9	カワラヒワ	1	0.6				シジュウカラ	1	0.5	キビタキ	1	0.4
24	クロジ	2	0.9							カケス	1	0.4			
25	ヤブサメ	1	0.5							ハシブトガラス	1	0.4			
26	マヒワ	1	0.5												
27	ハシボソガラス	1	0.5												
28															
出現種数	27種			23種			22種			23種			25種		
出現個体数		218	100		165	100		173	100		196	100		231	100

調査月	9		月	1 0		月	1 1		月	1 2		月
		N	%		N	%		N	%		N	%
1	ヒヨドリ	73	29.6	メジロ	115	29.0	ヒヨドリ	24	11.7	イカル	48	20.5
2	エナガ	61	24.7	エナガ	73	18.4	エナガ	24	11.7	ツグミ	28	12.0
3	ホオジロ	18	7.3	アオジ	28	7.1	ヒガラ	23	11.2	ウソ	22	9.4
4	ヒガラ	17	6.9	ヒヨドリ	25	6.3	シジュウカラ	19	9.3	エナガ	19	8.1
5	ヤマガラ	17	6.9	ヒガラ	17	4.3	ヤマガラ	17	8.3	シジュウカラ	16	6.8
6	メジロ	11	4.5	ホオジロ	17	4.3	ルリビタキ	14	6.8	ヒガラ	14	6.0
7	コゲラ	10	4.0	ヤマガラ	16	4.0	コゲラ	10	4.9	マヒワ	13	5.6
8	ハシブトガラス	8	3.2	シジュウカラ	14	3.5	アカゲラ	8	3.9	コガラ	12	5.1
9	キジバト	6	2.4	ウグイス	12	3.0	ウグイス	8	3.9	ヒヨドリ	10	4.3
10	カケス	6	2.4	カシラダカ	12	3.0	ホオジロ	8	3.9	ヤマガラ	8	3.4
11	トビ	3	1.2	ベニマシコ	12	3.0	マミチャジナイ	7	3.4	コゲラ	7	3.0
12	キセキレイ	3	1.2	カケス	11	2.8	ハシブトガラス	6	2.9	ホオジロ	7	3.0
13	メボソムシクイ	3	1.2	キジバト	10	2.5	カケス	5	2.4	アカゲラ	4	1.7
14	オオルリ	3	1.2	コゲラ	10	2.5	ハシボソガラス	5	2.4	ベニマシコ	4	1.7
15	アオゲラ	2	0.8	シロハラ	5	1.3	キジバト	3	1.5	メジロ	3	1.3
16	ウグイス	2	0.8	マミチャジナイ	4	1.0	アオゲラ	3	1.5	オオマシコ	3	1.3
17	コサメビタキ	2	0.8	ハシブトガラス	4	1.0	ベニマシコ	3	1.5	ミソサザイ	2	0.9
18	オオタカ	1	0.4	アカゲラ	3	0.8	アカハラ	2	1.0	ウグイス	2	0.9
19	ハシボソガラス	1	0.4	キセキレイ	2	0.5	ツグミ	2	1.0	アオジ	2	0.9
20				コガラ	2	0.5	コガラ	2	1.0	カワラヒワ	2	0.9
21				ハシボソガラス	2	0.5	メジロ	2	1.0	ハシボソガラス	2	0.9
22				トビ	1	0.3	ミヤマホオジロ	2	1.0	ハシブトガラス	2	0.9
23				キジ	1	0.3	マヒワ	2	1.0	コチョウゲンボウ	1	0.4
24				コサメビタキ	1	0.3	ウソ	2	1.0	ヤマドリ	1	0.4
25							ノスリ	1	0.5	アオゲラ	1	0.4
26							ミソサザイ	1	0.5	カケス	1	0.4
27							カワラヒワ	1	0.5			
28							イカル	1	0.5			
出現種数	19種			2 4 種			28種			26種		
出現個体数		247	100		397	100		205	100		234	100

面積的には狭い範囲であるが、草地化している 林道ののり面や荒廃地および林縁部には、草地性 のホオジロ、ウグイスのほか、出現頻度は低いも ののヤマドリ、キジ、モズ、ミソサザイ、アカハ ラ、カシラダカ、アオジ、クロジ、アトリ、オオ マシコ、ベニマシコが確認されている。

沢筋の水辺やその周辺の湿った林では、キセキレイやヤブサメが確認されたが、地形的に沢筋が入り組んで調査地に隣接しており、採餌等の行動上、調査地内で確認されるものと思われる.

集落地域に隣接しているわりには、集落地周辺に多いスズメやムクドリなどは全く確認されず、カワラヒワも極端に少ない. ハシボソガラスとハシブトガラスは、耕地や集落周辺には多いものの、調査地内では少ない. カラス科の両者を比較すると、春~夏は前者が認められ、夏から初冬かけては両者が同じくらいに混在する. 見通しのよい樹上に止まり、周辺を移動するのが観察される.

春秋の渡りの時期, 冬期間に飛来する鳥種は, コチョウゲンボウ, ルリビタキ, シロハラ, マミ チャジナイ, アオジ, ツグミ, カシラダカ, ミヤ マホオジロ, アトリ, マヒワ, オオマシコ, ベニ マシコ, ウソ, イカルである. これらは, 通称の 旅鳥, 冬鳥, 漂鳥の類であるが. かならずしもそ れらだけではなく、近在から訪れたと思われる種類もいる。秋期から冬期にかけての種類数増の一因になっている。また、この時期、群の大きさからみれば、1回の調査において出現したそれぞれの種類の個体数は、総じて多いわけではなく、カシラダカの50、イカルの48、ウソの15、ツグミの14、ベニマシコの12、が確認されている。

繁殖もしくはその可能性の高い種類(以後は繁殖種と表す)が当地の鳥相を特徴づけているように思えるので、それらだけを抽出したのが表3である.

出現種に対する繁殖種の月別出現率をみると、 種数において5月87.0%,6月86.4%,9月84.2% にピークがある.さらに個体数をみると、5月 97.6%,6月94.2%,7月95.4%,9月94.7%と率 が高い.繁殖期に繁殖種が多くなるのは当然な結 果ではあるが、調査期間を通して繁殖種の占める 割合は、種数、個体数ともに高い数値であると考 える.

出現した鳥類をカウントすることによって鳥類相を把握しようとする調査方法であることから, 繁殖後期の出現率が下がることは否めない. 繁殖 後期は, 育雛期であり, 目立った活動が極端に少なくなる. 結果的に繁殖後期の繁殖種類数: 個体

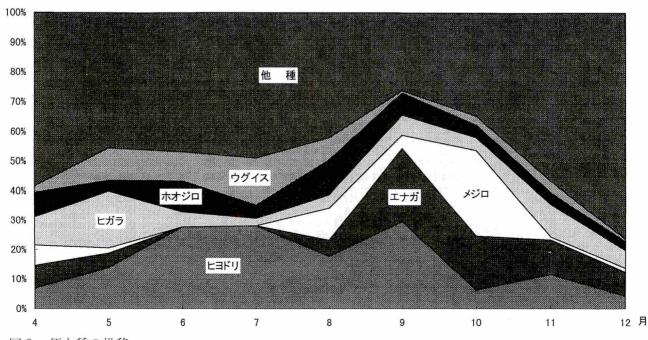


図2 優占種の推移

数は低値を示すが、実際の数値はもっと高い率になるのではないかと考えられる。とすれば、表3のアオゲラ、アカゲラ、エナガ、カラ類、メジロなどの低値は調査方法を工夫することによって是正されてくると思われる。

(2) 月別優占種

当地において優占している鳥類を明らかにする ため、月単位の優占度(総個体数に対する各種毎 の個体数の割合)で示したのが表4である.

各月に優占する鳥種 (10%以上) をみれば、

- 4月 カシラダカ、ベニマシコ
- 5月 ヒガラ、ヒヨドリ、ウグイス
- 6月 ヒヨドリ、ホオジロ
- 7月 ヒヨドリ. ウグイス
- 8月 ヒヨドリ、サンショウクイ、ホオジロ
- 9月 ヒヨドリ, エナガ
- 10月 メジロ, エナガ
- 11月 ヒヨドリ, エナガ, ヒガラ
- 12月 イカル, ツグミ となる.

以下に示す5種の例以外はすべて繁殖種である.

4月のカシラダカ,ベニマシコは、渡りの途中に立ち寄り,草地および林縁などで採食していた.カシラダカは一群、ベニマシコは数群であった.

12月のイカル,ツグミは,冬鳥として飛来したものである.イカルは1回の調査で48個体の一群,ツグミはこの月のすべての調査時に出現し最多時の14個体は二群,他は一群であった.

8月のサンショウクイは、周辺地域で繁殖していたとの情報はあるが、当地での繁殖は認められず、1回だけの一群であった。32個体が山稜沿いに移動したのを確認した。

調査期間を通じて上位に優占するヒヨドリ, エナガ, メジロ, ヒガラ, ホオジロ, ウグイスについて, 表4に基づきそれぞれの推移をみたのが図2である. わずか一月だけ高い優占度を示したカシラダカ, ベニマシコ, サンショウクイ, ツグミ, イカルは除いた. 月毎の優占種の推移は, 既述したように繁殖後期において説明しにくいところもあるが, 当地における主な種類が占める量的な特徴と考える.

ヒヨドリは,繁殖期に個体数を増加させた後, 冬期,大部分が南方へ漂行することで数を減じて いる.

エナガは、6・7・8月に他所へ移動するのか極めて発見できにくい状況をつくっているのか明らかではないが、9月以降は高い優占度を示す。

メジロもエナガと同様であるが、冬期間は漂行するのか数は少ない.

ヒガラも繁殖後期に数を減じる傾向がある.

ホオジロは、ほぼ同率で推移しているが秋から 冬の間は数を減じている。

ウグイスは、繁殖期に明らかに数を増加させているが、秋から冬は少ない. しかし激しいさえずりが繁殖終了とともに地鳴きとなることも考慮しなければならない.

上記6種に加えて、比較的上位に優占するキジバト、他のカラ類、キツツキ類、カケスなどの通年生息すると思われる種類のほか、オオルリ、キビタキ、クロツグミなどの夏鳥、春、秋に飛来する旅鳥、冬期間の冬鳥が混じり、当地落葉広葉樹二次林の鳥類相を特徴づけている。

これらは鈴木・由井 (1987), 井上(2000) が示したブナ林における鳥類群集とは明らかに異なると考える.

要 約

- 1 太平山山麓の落葉広葉樹林(いわゆる雑木林) 内における鳥類調査は、2000年4月から12月ま での期間に月3回(7月のみ4回)計28回実施 した。
- 2 調査は、調査地内に5カ所のステーションを設定し、ポイントセンサスを主に実施した.
- 3 確認した鳥類は,22科55種である.
- 4 ヒヨドリ,エナガ,メジロ,ホオジロ,ウグイス,カラ類,キツツキ類,キジバト,カケスなどの繁殖もしくはその可能性の高い種類が調査地において優占しているし,当地の鳥類相を特徴づけている.
- 5 4に加えて、オオルリ、キビタキ、クロツグ ミは繁殖期に優占した.
- 6 繁殖種の占める割合は、種数において47.3%、 個体数において 78.9%である. そのピークは、 5月(種数 87.0%、個体数 97.6%)と 9月 (種数 84.2%、個体数 94.7%)である.

引用文献

- 秋田県鳥類分布調査(1)~(29),1971~2000.秋田 県自然保護課.
- 井上一彦,2000:森吉山国設鳥獣保護区天然ブナ林 の鳥類群集の解析.秋田生物学会口答発表.
- 日本鳥類学会目録編集委員会,1997:日本産鳥類リスト.日本鳥学会誌,Vol.46,No.1,59-91.
- 鈴木祥悟・由井正敏,1987:ブナ林の繁殖期の鳥類 群集の類型化.日林東北支誌,No.39,229-231.

- 高橋一郎,1988:八郎潟調整池北部の鳥類とその生態.秋田県立博物館研究報告,No.13,1-12.
- 高橋一郎,1989:神室山の鳥類相.秋田県立博物館研 究報告.No.14,13-20.
- 高橋一郎,1990:寒風山の草原性鳥類.秋田県立博物館研究報告,No.15,27-34.

Avifauna in a deciduous broad-leaved secondary forest at the foot of Mt.Taihei (Akita , Japan)

by

Ichiro TAKAHASHI

Summary

1 I investigated avifauna in a deciduous broad-leaved secondary forest at the foot of Mt.Taihei, Akita Pref. using the point census method from April to December 2000.

Twenty eight examinations were carried out to complete the survey.

- 2 Twenty two families and 55 species were recorded in the present study.
- 3 In this investigated area, a breeding species were Brown-eared Bulbul (*Hypsipetes amaurotis amaurotis*), Long-tailed Tit(*Aegithalos caudatus trivirgatus*), Japanese White-eye (*Zosterops japonica japonica*), Siberian Meadow Bunting(*Emberiza cioides ciopsis*), Bush Warbler (*Cettia diphone cantans*), a genus of Tit, a genus of Woodpecker, Rufous Turtle Dove(*Streptopelia orientalis orientalis*), Jay(*Garrulus glanndarius japonicus*) and et al.

They were a dominant species, and also therse species have features quite its own in this area.

- 4 In addition to 3, a dominant species were Blue-and-White Flycatcher (*Cyanoptila cyanomelana cyanomelana*), Narcissus Flycatcher (*Ficedula narcissina narcissina*), Grey Thrush (*Turdus cardis*) in the breeding season.
- 5 A breading species amounted to 47.3% of the total species, and 78.9% of the total individuals. Judging from monthly changes of a breading species, the relative number have been two peaks. The one was in May(87.0% as species, 97.6% as individuals), and the other was in September

(84.2% as species, 94.7% as individuals).